

令和4年度

埋蔵文化財調査士補
資格試験

択一式問題・答案用紙

受験番号	氏名

試験日：令和4年8月27日（土）

会場：「連合会館」東京・御茶ノ水

公益社団法人 日本文化財保護協会

問1 埋蔵文化財調査士の資格制度の記述で、正しいものはどれか。

- A. 埋蔵文化財調査士は、発掘調査から報告書作成まで一貫して責任をもって実施できる。
- B. 埋蔵文化財調査士補は、経験の少ない作業員の指導のみできる。
- C. 埋蔵文化財調査士補は、CPDポイント不足による未更新者であっても、実務経歴と必要条件を満たせば特例として調査士試験受験資格を与えられる。
- D. 埋蔵文化財調査士と埋蔵文化財調査士補は、発掘経験年数の違いである。

問1	A
----	---

問2 継続教育（CPD）制度の記述で、正しいものはどれか。

- A. 埋蔵文化財調査士補は、CPDポイント不足による未更新者であっても、要望があれば特例として埋蔵文化財調査士試験の受験資格を与えられる。
- B. 埋蔵文化財調査士補のCPDポイントは、5年間で100ポイント以上取得すれば埋蔵文化財調査士になれる。
- C. CPDポイントは、自分で配分表を作成し集計しても良い。
- D. 資格を取得した後に自主的に新しい調査技術、調査成果の習得と考古学研究参加に努めることがCPD制度の目的である。

問2	D
----	---

問3 次の記述で、間違っているものはどれか。

- A. 災害事故発生時、刑事・行政・民事の三つの責任が問われることがある。
- B. 発掘現場の作業場では、労働災害の発生により労働基準監督署及び警察が捜査に入ることがある。
- C. 労働基準監督署の臨検では、現場で使用している設備の使用停止命令をうけることある。
- D. 被災労働者は、労災保険に基づく適切な法定補償を受け、さらに損害賠償を請求することができる。

問3	A
----	---

問4 労働安全衛生法（以下「安衛法」という）に関する説明で、間違っているものはどれか。

- A. 安衛法6条により厚生労働大臣は、5年毎に労働災害防止計画を定めている。
- B. 安衛法は、労働災害を防止し労働者の安全と健康を守ることを目的としている。
- C. 労働関係諸法令には安全配慮義務が明文で規定されているものもある。
- D. 災害発生時、事業者が関係法令を過失なく知らなければ責任は問われない。

問4	D
----	---

問5 ある発掘現場の状況に関する説明で、間違っているものはどれか。

- A. 掘削面の高さが2m以上となる地山の掘削の作業において、有資格者の中から作業主任者を任命した。
- B. 地山の掘削作業において、作業主任者が元方事業者との打合わせで不在となったが、従来と同じ要領で作業を継続するように指示を受けたので従った。
- C. 勾配が20度の仮設通路に「踏み棧」が設けられていた。
- D. 現場に設置されていたハシゴの突出しが70cmであった。

問5	B
----	---

問6 熱中症に関する次の記述で、正しいものはどれか。

- A. 熱中症対策には、水分補給をしていれば十分である。
- B. 熱中症は炎天下における屋外作業だけに発生する災害である。
- C. 熱中症では、最悪死亡する危険性もある。
- D. 熱中症対策は、気温と湿度の管理が重要である。

問6	C
----	---

問7 作業環境に関して労働安全衛生規則で規定されている記述で、正しいものはどれか。

- A. 多量の発汗を伴う作業においては飲料水を備えなければならない。
- B. 作業面の照度は普通の作業で100ルクス以上必要である。
- C. 事業場で常時使用する男性労働者は80人なので、臥床することができる休養室は設けなくても構わない。
- D. 日常行う清掃の他に大掃除を6か月以内毎に定期的に統一的にこなっている。

問7	D
----	---

問8 埋蔵文化財調査を行政以外の者が行う場合、発掘届は文化財保護法の第何条に該当するか。

- A. 第92条
- B. 第96条
- C. 第99条
- D. 第108条

問8	A
----	---

問9 埋蔵文化財調査を行政以外の者が行う場合、発掘届に添付するものはどれか。

- A. 調査地区に隣接する住民の承諾書
- B. 土地所有者の承諾書
- C. 該当する行政の担当者の承諾書
- D. 地元の考古学研究者の承諾書

問9	B
----	---

問10 調査担当者として発掘調査を運営して行くために、不適切なものはどれか。

- A. すべて発掘調査を最優先に行う。
- B. 行政担当者への報告、打合せを十分に行う。
- C. 調査員間や作業員との日々のコミュニケーションを取る。
- D. 地域周辺への気配りを怠らず、調査を進める。

問10	A
-----	---

問11 現地調査終了後、遺物の「発見届」を提出するが、どこにいつまでに提出するか。

- A. 文化庁へ3か月以内
- B. 都道府県教育委員会へ1か月以内
- C. 市町村教育委員会へ1週間以内
- D. 所管の警察署へ1週間以内

問11	D
-----	---

- 問12 調査を運営するに当たり特に注意しなければならないものはどれか。
- A. 工程管理
 - B. 予算管理
 - C. 調査区周辺対策
 - D. 安全管理

問12	D
-----	---

- 問13 旧石器時代に存在しない遺構はどれか。
- A. 礫群
 - B. 環濠集落
 - C. 石器集中（ブロック）
 - D. 配石

問13	B
-----	---

- 問14 縄文時代中期～後期に存在しない遺構はどれか。
- A. 複式炉
 - B. 敷石住居
 - C. 方形周溝墓
 - D. 埋甕

問14	C
-----	---

- 問15 住居跡の調査方法について正しいものはどれか。
- A. 出土遺物を全点ドットで取り上げをする場合、覆土の土層観察は必要ない。
 - B. 住居跡が重複して新旧関係がある場合は、古い遺構から調査する。
 - C. 焼失住居はすでに燃えているので記録を省略して掘ることが一般的である。
 - D. 住居跡の時期認定においては、床面直上遺物と炉体土器の時期が重要である。

問15	D
-----	---

- 問16 本ノ木遺跡に関わるものはどれか。
- A. 出土した石槍と土器の評価を巡って、旧石器時代と縄文時代の論争が生じた。
 - B. 大型の掘立柱建物跡が検出された。
 - C. B地点とE地点で出土土器の違いが確認され、時間差であると確認された。
 - D. 日本人種論争が生じた。

問16	A
-----	---

- 問17 縄文時代の石器の説明として正しいものはどれか。
- A. 黒曜石はガラス質であることから、石鏃等の石材として広く用いられた。
 - B. 石皿は盛り付け用の皿と考えられている。
 - C. 石刃などの剥片を素材としたナイフ形石器が広く製作された。
 - D. 打製石斧は一般的に木の伐採に用いられたものと考えられている。

問17	A
-----	---

問18 縄文土器の説明について、適切なものはどれか。

- A. 浅鉢は一般的に深鉢より多く出土する。
- B. 有孔鏝付土器の用途論には、太鼓説と酒造具説とが知られている。
- C. 縄文土器には彩色を施したものは存在しない。
- D. 土器に使用する縄文原体は縄文時代中期末に最も種類が豊富となる。

問18	B
-----	---

問19 弥生時代中・後期に、農作物を大量生産するには適さないとされる山地の頂上・斜面・丘陵に営まれた集落を何というか。

- A. 環濠集落
- B. 防禦集落
- C. 高地性集落
- D. 山城

問19	C
-----	---

問20 弥生時代の水田は、小区画水田が一般的なものと考えられるに至っている。そのきっかけとなった水田が発見された遺跡はどれか。

- A. 日高遺跡
- B. 登呂遺跡
- C. 板付遺跡
- D. 垂柳遺跡

問20	A
-----	---

問21 奈良県箸墓古墳をはじめとした定型化した前方後円墳の造営をもって古墳時代の始まりとする見解が現在有力である。この段階の当初からすでに国家段階に達していたと主張し、こうした前方後円墳の造営にみられる政治秩序を前方後円墳体制と名付けて、国家形成論に切り込んだのはだれか。

- A. 広瀬和雄
- B. 近藤義郎
- C. 都出比呂志
- D. ウィリアム・ゴーランド

問21	C
-----	---

問22 榛名山の噴出物に覆われた群馬県にある古墳時代後期の集落遺跡では、竪穴住居・掘立柱建物・平地式建物や田畠・家畜小屋などを柴垣で囲む屋敷が発掘されて注目された。この遺跡はどれか。

- A. 日高遺跡
- B. 黒井峯遺跡
- C. 中筋遺跡
- D. 金井遺跡群

問22	B
-----	---

問23 1950年代、『日本書紀』の大化改新詔にみえる「郡司」という用語を後世の潤色とみるか否かの論争が続いていた。大宝律令制定を境に行政単位の「コオリ」の表記が「評」から「郡」へと移行していることを明らかにし、論争に終止符を打った遺跡はどれか。

- A. 飛鳥浄御原宮跡
- B. 藤原宮跡
- C. 平安宮跡
- D. 長岡宮跡

問23	B
-----	---

問24 斜面を利用した地下式ないし半地下式の須恵器や陶器を焼成する窯の呼称として、最も適切なのはどれか。

- A. 登窯
- B. 連房式登窯
- C. 達磨窯
- D. 窖窯

問24	D
-----	---

問25 江戸遺跡の持つ2つの意味に対するものとして正しく記述しているものはどれか。

- A. 江戸遺跡とは、近世都市「江戸」関連遺跡のことである。
- B. 江戸遺跡とは、江戸時代の遺跡の意味である。
- C. 江戸遺跡には2つの意味がある。近世都市「江戸」に関連する空間の意味を持つもの、江戸時代の遺跡としての時代の意味を持つものである。
- D. 江戸遺跡とは、江戸氏に関連する遺跡のことである。

問25	C
-----	---

問26 出土した文字資料のなかで、焼塩壺に記された『泉州麻生』という刻印は何を意味しているのか、正しいものはどれか。

- A. 『泉州麻生』は、泉州、麻生村のことで、焼塩のブランドを示している。
- B. 『泉州麻生』という塩づくりの名人がいた。
- C. 『泉州麻生』は中国にある地名から付けた。
- D. 『泉州麻生』には、格別の意味はなし。

問26	A
-----	---

問27 文化庁の1998年のいわゆる「円滑化通知」において、「中世」「近世」「近現代」はどのように記されているか、組み合わせとして正しいものはどれか。

- 次の()の中に、それぞれ、「中世」、「近世」、「近現代」の言葉を入れてください。
- (1) ()に属する遺跡については、地域において必要なものを対象とすることができること。
 - (2) おおむね()までに属する遺跡は、原則として対象とすること。
 - (3) ()の遺跡については、地域において特に重要なものを対象とすることができること。

- A. (1)「近現代」、(2)「中世」、(3)「近世」
- B. (1)「中世」、(2)「近世」、(3)「近現代」
- C. (1)「近世」、(2)「近現代」、(3)「中世」
- D. (1)「近世」、(2)「中世」、(3)「近現代」

問27	D
-----	---

問28 江戸(※空間の意味)の武家地の調査を行う際、土地利用の変遷を調べるための事柄について述べているものはどれか。

- A. 『江戸図』や『御府内沿革図書』などを確認して、対象地の拝領者を調べる。拝領者がわかれば、『寛政重修諸家譜』や『藩史大事典』などを引き、拝領者がどのような家、人物かの概要を把握する。
- B. 『御府内寺社備考』などで、寺域内の土地利用について調べる。
- C. 『江戸買物独案内』を確認して、どこに店舗が所在したかを調べてみる。
- D. 『町方書上』から、屋敷の所収者を確認する。

問28	A
-----	---

問29 近世遺跡で出土する遺物の材質別の残り方について、正しい記述はどれか。

- A. 金属製品は、有機物のように腐ったりはしないが、リサイクルされることで残らないこともある。
- B. 日本では木造家屋が多いので、木材や木製品については、どの遺跡でも豊富にみられる。
- C. 珪藻なども慣れてくれば肉眼で見えるようになる。
- D. 土器は江戸時代には使われておらず、江戸遺跡では見つかることはない。

問29	A
-----	---

問30 高輪築堤に関して、「ヘリテージ・アラート」を出した団体はどこか。

- A. 日本考古学協会
- B. 日本イコモス
- C. 国際イコモス
- D. 文化庁

問30	C
-----	---

問31 発掘調査の情報処理において重要な事柄として正しい記述はどれか。

- A. 発掘調査の情報処理は、他の調査の記録・情報と相互参照・利用できるようにすべきである。
- B. 発掘調査の情報処理において、情報の質より量が重要である。
- C. 発掘調査の情報処理は、作業工程ごとに完結していればよい。
- D. 発掘調査の情報処理では、情報やデータの相互参照性や互換性は重要ではない。

問31	A
-----	---

問32 発掘調査および整理作業で取得される情報について正しい記述はどれか。

- A. 内容の客観性・再現性が乏しい記載的信息は採用すべきではない。
- B. 異なる計測・記録方法による情報は独立したものとして扱うべきである。
- C. 記載的信息は数値的信息より多くの事柄を限られた情報量で記録できるので優れている。
- D. 数値的信息と記載的信息はそれぞれの特性を活かし相互に補い合うものとするべきである。

問32	D
-----	---

問33 デジタル化された情報記録の管理について間違っただ記述はどれか。

- A. デジタル化されたデータは専用の機材、ソフトだけで利用できればよい。
- B. デジタル化されたデータは、複製を繰り返すと劣化したり変容することがある。
- C. デジタル化された機器はメンテナンスや補正をすることで精度を保つことができる。
- D. デジタル化されたデータについてバックアップ、継続的なメンテナンスが必要である。

問33	A
-----	---

- 問34 発掘調査・報告書作成における情報処理の実際について正しい記述はどれか。
- A. デジタル化された情報処理においては、発掘調査から報告書作成まで一貫したワークフローが重要である。
 - B. 報告書に掲載される情報のみが必要であり、調査経過の記録を取る必要はない。
 - C. 異なる機器・手法で取得される情報の統合にはリレーショナルデータベースが必須である。
 - D. 遺物整理作業段階で取得される情報は発掘調査段階のものとは独立させて扱う必要がある。

問34	A
-----	---

- 問35 発掘調査成果の普及・公開について間違った記述はどれか。
- A. 発掘調査報告書は高度な内容なので専門家だけが閲覧・利用できれば良い。
 - B. 一般書の出版や博物館の展示は発掘調査報告書の内容を一般向けに普及するためである。
 - C. 埋蔵文化財保護行政の成果である発掘調査報告書も行政オープンデータのひとつと考えるべきである。
 - D. 発掘調査報告書はいわゆる「灰色文献」であり、一般的な図書流通にのらず検索・閲覧が困難である。

問35	A
-----	---

- 問36 発掘調査における記録について正しい記述はどれか。
- A. 発掘調査における記録は、できるだけ調査の再現性を高め、発掘調査の過程や成果を検証可能なものとする。
 - B. 発掘調査における位置の記録は、すべて測量法に則って実施しなければならない。
 - C. 発掘調査における記録は、毎日おこなう必要はない。
 - D. 発掘調査で使う計測機器は、対象の種類や規模、目的などによって変えてはならない。

問36	A
-----	---

- 問37 発掘調査報告書作成に係る整理作業について間違った記述はどれか
- A. 発掘調査報告書は、埋蔵文化財の発掘調査から整理等作業にいたる、発掘調査全般の成果を的確にまとめたものである。
 - B. 発掘調査報告書は刊行することが目的なので、遺跡の内容を将来に残し伝えるための必要十分な情報を掲載する必要はない。
 - C. 発掘調査報告書作成のための作業には、基礎整理、図化、遺構・遺物の総合的な把握などがあり、それらを互いに効率的に参照しながら進める必要がある。
 - D. ICTは、発掘調査報告書作成に係る整理作業などの迅速化・効率化にも資する可能性がある。

問37	B
-----	---

- 問38 地理情報の管理・分析・表示・活用に長けたシステムはどれか。
- A. CAD
 - B. SfM-MVS
 - C. Drogger
 - D. GIS

問38	D
-----	---

問39 遺跡・遺構の図化について間違っただ記述はどれか。

- A. 遺跡・遺構の図は、最新の成果を報告するものなので研究史などは参照せず、報告書作成者の基準に従っておこなえばよい。
- B. 地層、遺構配置、遺構の形状、遺物出土状況など、発掘調査を通じて観察・取得・記録された情報は、第三者が読み取り可能なかたちに図化し報告書に掲載する。
- C. 従来の基準・標準では図示困難な重要な情報があると判断される場合には、それらを明示する上で必要な方法を新たに検討することは積極的に行われるべきである。
- D. 図化に際しては、発掘調査時点の記録を基準としつつ、調査中および調査後の分析をふまえた修正、整理作業を通じて取得されたあらたな属性・情報を加味することも検討するべきだ。

問39	A
-----	---

問40 遺物の整理作業として正しいものはどれか。

- A. 遺物の整理作業は、それぞれの工程を一度で完遂させなければならない。
- B. 遺物観察によって明らかにした情報は、検索や相互参照の利便性を考慮した形式での記録・管理が望ましい。
- C. 観察にもとづく定性的な記載的信息はより自由度が大きいので、標準化する必要はない。
- D. 遺物の実測図作成や写真撮影は、発掘調査報告書に掲載することが目的なので、発掘調査報告書刊行後に利用することはない

問40	B
-----	---

問41 植物微化石の特徴として間違っているものはどれか。

- A. 珪藻化石は、水域の復元に有効である。
- B. 花粉化石は、黒ボク土やローム土など乾いた場所でも良好に残存する。
- C. 微粒炭は人間活動(火の利用)と密接に関係し、人間活動が活発な場所で増える。
- D. 植物珪酸体は、ローム層や黒ボク土などの風成層、遺構内の焼土や灰、土器胎土にも残存する。

問41	B
-----	---

問42 分析試料の採取・管理方法で間違っているものはどれか。

- A. 採取した試料には、何も記録せずに封を開けた状態で管理する。
- B. 採取した試料には、採取地点(平面的な位置)を記録する。
- C. 採取した試料には、採取層位・位置・深度等を記録する。
- D. 採取した試料には、場合により土壌の量などを記録する。

問42	A
-----	---

問43 分析試料の採取方法の違いによる特徴で間違っているものはどれか。

- A. 水平でサンプリングする方法では、連続して定量的な検討が可能である。
- B. 水平でサンプリングする方法では、堆積層が薄いあるいは斜め場合は複数の層位が含まれることがある。
- C. 層位にそってサンプリングする方法では、層位との関連が不確実なものとなることがある。
- D. 層位にそってサンプリングする方法では、層位の厚さにより分析量が異なる。

問43	C
-----	---

問44 分析対象物を回収するまでに必要な試料の管理方法として正しいものはどれか。

- A. 焼けてない木材や種実は、乾燥させると組織が壊れるため屋外にて自然乾燥させる。
- B. 骨は、保存が悪い場合、周囲の土壌ブロックごと取り上げ、水洗することなく乾燥させる。
- C. 台地上の黒ボク土やローム層等は、炭化物の分離を容易とするため、採取してすぐに水洗する。
- D. 低湿地の土壌は、容易に水洗するために採取してから十分に乾燥させる。

問44	B
-----	---

問45 植物質や骨などの大型化石の保存方法で正しいものはどれか。

- A. 炭化していない木材など細胞を観察する試料は、カビを発生させないためアルコールで保存する。
- B. 炭化していない種実は、カビを発生させないように乾燥して保存する。
- C. 炭化材・種子、貝、骨などは自然乾燥させ、カビが生えない状態で保存する。
- D. 骨はカビに対して抵抗性あるため、どんな場合でも水に漬けて保存する。

問45	C
-----	---

問46 出土遺物のドキュメンテーションの説明として、間違っているものはどれか。

- A. 3Dプリンターの実用化が進み、出土遺物の3次元立体造形が可能となってきた。今後、単なる複製機能ばかりでなく、拡大・縮小・反転機能なども活かして展示や研究に利用されるものと期待される。
- B. 3Dスキャナーなどによる3次元データの記録は遺物の考古学的調査・研究に役立つばかりでなく、保存処理における可逆性を補う意味も持つのでなるべく実施しておくべきである。
- C. 保存処理に際して保存処理担当者によって紙カルテが作られてきたが、現在では全国共通の電子カルテシステムが完成し既に運用されている。
- D. 微小な遺物に関する顕微鏡レベルでの3次元データ記録はいくつかの手法で実用段階に達しつつあるので今後は標準的な記録法として定着することが期待される。

問46	C
-----	---

- 問47 発掘現場で遺構や土層を剥ぎ取る（転写）作業についての説明として、間違っているものはどれか。
- A. 堅穴住居や窯址などの立体的な遺構を剥ぎ取った場合は凹凸が逆になっているが、もう1回転写すると展示等に活用できる形になる。
 - B. 垂直面の土層剥ぎ取りでは深掘りした穴の中で作業することになりがちなので土砂崩れや換気不良への十分な対策が必要である。
 - C. 大面積の剥ぎ取りを行なう時は資材・薬剤量の確認、分割する場合の位置合わせマーキング、剥ぎ取り後の運搬・洗浄の手配等の段取りを充分しておく必要がある。
 - D. エポキシ系の薬剤を用いて土層を剥ぎ取る場合、気温が高い時期には薬剤が硬化しにくいので時間の余裕を充分見ておく必要がある。

問47	D
-----	---

- 問48 保存処理が完了した出土遺物の保管と展示・活用に関する注意点として、間違っているものはどれか。
- A. PEG（ポリエチレングリコール）で保存処理した木製品で強度が不足する場合に副木等で補助することがあるが、将来の展示にも差し支えないような副木や展示台を前もって用意しておくが良い。
 - B. 出土遺物の保存処理に関する処理方法や使用薬剤のデータは長期保存し、基本的に報告書等で公開すべきであり、展示に当たってもなんらかの説明が望まれる。
 - C. 保存処理した金属製品を常設展示する場合はエアタイトケースに入れるのが望ましいが、それができないなら定期的に点検して異状を早めに察知するよう努める必要がある。
 - D. 保存処理した鉄製品をアクリル製の簡易ケースに入れて保管する場合は乾燥剤を入れ、乾燥剤の有効期限をチェックしなければならない。シリカゲルであれば赤色が青色に変化したら交換する必要がある。

問48	D
-----	---

- 問49 顔料や漆が付着した土器が出土した場合の注意点として、間違っているものはどれか。
- A. 極端に乾燥させると剥落が進む危険があるので水を満たした容器中に保存するのが良い。
 - B. 急激な乾燥を避け、生乾き状態から徐々に乾燥させる。
 - C. 剥落した微小破片・粉末であっても分析試料として使えるので廃棄せず保管しておくべきである。
 - D. 付着物は水洗によって失われることが多いので付着物が存在する可能性を念頭に水洗作業をすることが望ましい。

問49	A
-----	---

- 問50 出土遺物の仮保管の注意点として、間違っているものはどれか。
- A. 水漬けの木製品を仮保管中に計測することがあるが、一般的に「水ぶくれ」状態なので保存処理後の計測値はやや小さくなることが多い。
 - B. ポリエチレン製のチャック付袋は気体を完全には遮断できないので、脱酸素剤を入れても十分な効果は期待できない。
 - C. 鉄製品は仮保管中にサビが進んで粉末になってしまうことがあるが、青銅製品は表面に青サビが発生する程度で原形をとどめないほどに粉末になる恐れはない。
 - D. 錆着した銅銭の銭銘を仮保管中に確認するために銭を剥がす時に細かく割れてしまった場合、後日の保存処理に支障がないよう破片の紛失防止に努める必要がある。

問50	C
-----	---